

## 第1学年国語科学習指導案

日時 平成20年10月17日(金) 授業I  
児童 男子11名 女子7名 計18名  
授業者 坂下 節子 中澤 智子

1 単元名 こえにだしてよもう  
教材名 「くじらぐも」

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

児童はこれまで、入学してきてから平仮名五十音の読み方・書き方を学習してきた。そして「声に出して読むこと」「視写すること」などの基礎的・基本的な学習を1学期から積み重ねてきた。1年上「はなのみち」では、主語、述語の関係をおさえ、書かれている内容について視写を取り入れ、理解する活動を行ってきた。また、挿絵を使って、登場人物の考えを想像する活動も少しずつ進めている。「おむすびころりん」では繰り返される言葉の響きを楽しんだり、おじいさんとねずみの心情について動作化を取り入れながら、登場人物になったつもりで考えたりする学習をしてきた。その活動を通して「自分の気持ちや考えを話すこと」「登場人物の気持ちを想像して発表すること」などを学んできた。

語彙力に関しては個人差が大きく、語彙が豊かな児童は、自分のなりの言葉で考えを発表しようとするが、語彙が少ない児童は、発言に対しても苦手意識をもっている子もいる。

音読については、家庭学習で毎日取り組んでいる。初見の文章でもあまりひっかからずに読むことができる児童がいる一方で、拾い読みですらすらと読むことのできない児童もおり、個人差がある。読書好きな子どもが多く朝読書の時間では集中して本を読むことができる。

#### (2) 教材について

本単元「こえにだしてよもう」は、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材「くじらぐも」は、体育の授業という身近な現実の中から幻想の世界に入り、想像の中で十分に遊んだ後に、また現実の世界と空間に戻る。物語開始の場面は身近で入りやすく、入ってみると一挙に想像の広がり誘い込んでくれ、また、ちゃんと現実の世界にもどしてくれるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる物語である。自分たちと同じ1年生の話であることから、親近感をもち、みんながあこがれるであろう「雲に乗ってみたい。」「空の上から下の景色を眺めてみたい。」などの思いを作中の人物と一体になって読むことのできるおもしろさがある。

構成は5つの場面からなっている。冒頭の2文で場面が明白に設定され、雲のくじらの登場により、これから起こることへの興味をわきたたせてくれる。そして、くじらと子どもたちとの呼応が始まり、心が通じ合い、子どもたちが雲の上にとび乗ることによって場面は大空へと変わる。大空を泳ぎ回り、やがてお昼の時間となり、楽しさを残しながら夢のような出来事が終わり、場面は再び地上へと戻る。

児童にとって言葉と挿絵から想像を楽しみ、登場人物に同化し、呼応する会話や繰り返しの表現のおもしろさなどを音声に表現したくなる教材である。これらの文章表現の特徴を生かして場面にあった読み方を工夫できる。

#### (3) 指導にあたって

つかむ段階では校庭に出て、くじらぐものイメージを実際の雲からつかみたい。さらに何度も音読する中で好きな場面やおもしろいところを見つけていく。

ふかめる段階では音声化、動作化する活動や、吹き出しにくじらぐもや子どもたちが考えていることを書くことにより、くじらぐもと子どもたちとの心の交流を読み取れるようにしていきたい。

まとめる段階では子どもたちがくじらぐもにあてた手紙を書いたり、雲の絵を描かせてたり、吹き出しに文章を書き込ませたりして、自分のくじらぐもの想像をひろげ書くことの学習をより意欲的なものにしていきたい。

### 3 指導目標

#### 【関心・意欲・態度】

◎登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、また、物語を楽しもうとしている。

#### 【読むこと】

◎ 場面の様子を想像を広げながら読むことができる。(読むこと ウ)

◎ 語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。(読むこと エ)

#### 【言語事項】

○姿勢や、口形などに注意して、はっきりとした発音で話すことができる。(言語ア ア)

### 4 単元指導計画 (全11時間)

段階	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ	1	教師の範読を聞き、初発の感想をもち、交流し合う。  校庭で自分のくじらぐもを探す。	挿絵をもとに感じたことを発表し、興味・関心をもたせる。	教師の読み聞かせを聞き、すきなところやいいなと思ったところを見つけ感想をもとうとしている。
	2	1	全文を読み、大まかな話の筋をつかむ。	全文を読み、挿絵も活用しながら、筋の展開をつかませる。
ひろげる	1	子どもたちとくじらの出会いと体操のまねをするくじらぐもの様子を読み取る。	いつどこでだれがどうしたかをつかみ、「～も」の言葉からくじらがまねしていることがわかり、動作化をさせ吹き出しに書かせる。	子どもたちとくじらとの出会いの様子と体操のまねをするくじらぐもの様子を読み取っている。
	2	くじらと子ども達の呼応する様子を読み取る。	だれが誘っているのかを理解させ、雲に飛び乗る場面を想像させたり、動作化させたりする。	くじらと子ども達の呼応する様子を読み取っている。
	1 本時	くじらにとび乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらの交流の様子を読み取る。	くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちとそれを応援するくじらの交流の様子を動作化させ、吹き出しに書かせる。	くじらに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらの交流の様子を読み取っている。
	1	くじらに乗って空を旅する子どもたちの様子を読み取る。	子どもたちの様子を読み取り、それに合わせて動作化をさせ、吹き出しに書かせる。	空を旅する子どもたちの様子を読み取っている。
	1	くじらぐもと別れる子どもたちの様子を読み取る。	子どもたちの様子や気持ちを読み取り、それに合わせて動作化をさせたり、吹き出しに書かせる。	くじらぐもとお別れをする子どもたちの様子を読み取っている。

ま と め る 3	1	各場面の様子を思い浮かべながら、全文を音読し、くじらぐもにあてた手紙を書くことができる。	役割を決めてなりきって音読し、全体の話を取り返りながら、くじらぐもに対する自分の思いを書かせる。	全文を音読し、くじらぐもにあてた手紙を書こうとしている。
	1	くじらぐもにあてた手紙の続きを書き、紹介することができる。	くじらぐもに対する自分の思いを書き、友達のよいところを見つけさせる。	くじらぐもにあてた手紙を書き、友達を紹介している。
	1	校庭で自分が見つけた雲とお話したいことを書く。	自分が見つけた雲の絵を描き、空想や想像をふくらませて自分の思いを書かせる。	校庭で自分が見つけた雲と話をしたいことを書こうとしている。

## 5 本時の指導

### (1) 目標

くものくじらにとび乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらの様子を読み取ることができる。

### (2) 授業の視点

- ・子どもたちのしたことや会話を、教材文からみつけ、動作化にむすびつけて様子を想像させる。
- ・子どもたちの気持ちを吹き出しに書き、気持ちを想像させ、読み方を工夫する。

### (3) 展開

段 階	学習活動	教師の働きかけ (・) 児童の反応 (→)	指導上の留意点
つ か む 3 分	1 前時の学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くじらにどのように誘われましたか。</li> <li>→「ここにおいでよう。」です。</li> <li>・みんなはどうすることにしましたか。</li> <li>→雲のくじらにとびのろうとした。</li> <li>→男の子も女の子もはりきりました。</li> <li>・今日はその後どうなったか読んでいきます。</li> </ul>	・すぐ出ない場合には前時に使った掲示物なども活用する。
	2 学習課題を把握する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           子どもたちはどのようにしてくものくじらにとびのろうとしたのだろう。         </div>	
	3 学習場面を音読する。 P8L1～P9L2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(P8・9) 子どもたちはどのようにしてくじらぐもにのろうとしたのか考えながら読みましょう。(一斉読)</li> </ul>	

<p style="text-align: center;">ふ か め る</p> <p style="text-align: center;">3 7 分</p>	<p>4 詳しく読み取る。  (1) 子どもたちの様子を読み取る。</p> <p>(2) くじらにのった子どもたちの様子から気持ちを読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが言ったことにサイドラインを引きましょう。</li> <li>→「天までとどけ一、二、三。」です。</li> <li>・一回目の「天までとどけ一、二、三。」は何をしながら言いましたか。</li> <li>→みんなは、手をつないで、まるいわになっていました。</li> <li>→ジャンプしながら、いいました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなふうにしたのですか。やってみてください。</li> </ul> </li> <li>→（動作化） <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのくらいとべたのですか。</li> </ul> </li> <li>→三十センチくらいです。</li> <li>・くものくじらはどうしましたか。</li> <li>→もっとたかく、もっとたかくとおうえんしています。</li> <li>・二回目の「天までとどけ一、二、三。」ではどうになりましたか。</li> <li>→こんどは、五十センチくらいとべました。</li> <li>・一回目と二回目の「天までとどけ一、二、三。」の言い方の違いはありますか。</li> <li>→一回目より二回目は声が大きくなりました。</li> <li>・その声で音読をしましょう。</li> <li>・くじらになって応援してくれる人いますか。</li> <li>・三回目の「天までとどけ一、二、三。」はどう読めばいいですか。</li> <li>→もっと大きな声</li> <li>・「そのとき」みんなはどうなったのでしょうか。</li> <li>→いきなりかぜが、みんなをふきとばしました。</li> <li>→あっというまに、せんせいと子どもたちは、手をつないだまま、くものくじらにのっていました。</li> <li>・くじらにのったみんなはなんと言ったのか吹き出しに書いてみましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインが引けない子には机間指導で支援する。</li> <li>・紙板書や板書で3回言ったことを確認する。</li> <li>・一回目と二回目の違いに気づかせる。</li> <li>・くじらも応援する声が大きくなっていることに気づかせたい。</li> <li>・くじらのお面をつけ、台にのって言わせる。</li> <li>・一回目と二回目・三回目の違いに気づかせる。</li> <li>挿絵も活用して想像させたい。</li> </ul>
---	---	--	--

		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         やったー。みんなでちからを合わせたからのれたよ。          くじらさんもおうえんしてくれたからのれたよ。       </div> ・吹き出しの発表をしましょう。	
まとめる 5分	5 まとめの音読をする。  6 次の時間はくじらにのった場面を読んでいきましょう。	・まとめの音読しましょう。(個人)  ・次の時間はくじらにのった場面を読んでいきましょう。	

具体の評価規準

A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する子への支援
くものくじらにのって、子どもたちが言ったことを読み取ったことをもとに、自分の言葉で吹き出しに書いている。	くものくじらにのって、子どもたちが言ったことを吹き出しに書いている。	子どもたちの言ったこと、くじらの様子をpushさえ、考えさせる。

(4) 板書計画

